

豊橋の春を彩る熱狂

地域社会の絆を深める「豊橋鬼祭」

豊橋市立八町小学校長 山本 武志

豊橋市立八町小学校は、豊橋市のほぼ中央にあり、吉田城址公園や東三河県庁に隣接した、旧吉田藩の武家屋敷跡に位置しています。地域の絆が強いだけでなく、地域の教育力が非常に高く、三年前に市内初のコミュニティ・スクールとなり、本校児童はさまざまな地域の方々に支えられています。その地域の結びつきの元になっているのが、天下の奇祭と呼ばれる豊橋市の誇る「豊橋鬼祭」です。

要無形民俗文化財にも指定されている豊橋鬼祭は、八町小学校区だけでなく、豊橋市民にとって誇りであり、かけがえない宝物です。毎年2月10日と11日の2日間にわたり、豊橋市八町通にある安久美神戸神明社を中心に開催されます。

時の流れに刻まれた

鬼祭の記憶

千年の時を超え、豊橋の地に息づく熱き魂——鬼祭。この祭りは、単なる地域のイベントという枠を超え、私たちの街、豊橋の歴史と文化そのものを体現する存在です。春の訪れを告げる風物詩として、古くからこの地に住む人々に愛され続け、その活動は世代を超えて受け継がれてきました。国の重

鬼祭の起源は、平安時代から鎌倉時代にかけての時代に遡ると考えられています。当時流行した田楽という芸能が、神道の儀式に取り入れられ、現在の鬼祭の基礎となったと言われています。特に、豊作や地域の安寧を祈る農耕儀礼との深い繋がりが指摘されており、「田遊び」と呼ばれる、豊穡を祈る素朴な芸能がそのルーツにある可能性も示唆されています。田楽の所作や

持ち物には、収穫への願いが込められており、例えば、祭りの際に使われる冠が稲わらでできていたり、五穀の種が入った袋が飾られていたりするのも、そうした背景を感じさせます。この祭りが毎年執り行われるのは、天慶3年（940年）に創建されたとされる安久美神戸神明社です。この地が伊勢神宮の神領となった際に、寄進された土地の安泰と繁栄を祈願したのが始まりとされています。この由緒ある神社が、千年以上もの間、地域の信仰の中心であり続け、鬼祭という形でその祈りが受け継がれてきたのです。

時代が下ると、鬼祭は歴史上の人物とも深く関わるようになります。現存する赤鬼と天狗の面は、室町時代に、今川義元が寄進したという伝説が残っています。また、幼少期の徳川家康も



天狗と戦う赤鬼



「からかい」で鬼を追い払う天狗

鬼たちが織りなす熱狂絵巻

鬼祭の最大の見どころといえば、本祭である11日に行われる赤鬼と天狗の「からかい」でしょう。荒ぶる神である赤鬼と、武神である天狗が、それぞれの秘術を尽くして戦う様子は、勇壮でありながらもユーモラスです。激しい戦いの末に天狗に敗れた赤鬼は、「アツッカー」という叫びとともに境内から逃げ出し、その際にタンキリ飴と白い粉（小麦粉）を撒き散らします。この白い粉を浴び、飴を食べると、厄除けになり、夏病みをしないと古くから言い伝えられています。祭りの当日、見物客がこの粉を浴びて全身真っ白になる様子は、まさに「天下の奇祭」と



天下の奇祭の由来「白い粉まき」

呼ばれるゆえんです。鬼祭には、赤鬼だけでなく、さまざまな役割をもつ鬼が登場します。宵祭に登場する青鬼は、日本神話の主力男命をモデルとしており、「岩戸開き」の神事を奉納します。これは、天照大神が天岩戸に隠れてしまったという神話に基づいたもので、優美な古代衣装をまとった神々と青鬼が、琴や笛の音色に合わせて舞を披露します。また、青鬼は厄除けのタンキリ飴を撒きながら、氏子町内を練り歩く「門寄り」という行事も行います。青鬼に頭を撫でてもらうと、健康にご利益があるとも言われています。さらに、子どもたちが扮する小鬼も祭りに参加し、可愛らしい姿で境内を巡行したり、飴や粉をまいたりするのです。



青鬼の「門寄り」(八町小学校玄関)

児童に受け継がれる

鬼の面づくり

赤鬼の面は、その迫力ある表情から、縁起物として人気があり、お土産として購入する人も多くいます。また、豊橋には江戸時代末期から続く「豊橋張子」という伝統工芸があり、ここでは天狗や鬼の面が作られています。八町小学校では、5年生の図工で「豊橋張子保存会」の方を講師にお招きして、鬼や天狗の面づくりを行い、その作品は翌年度の「豊橋まつり」の際に開催される「子ども造形パライス」に出展しています。



5年生が図画工作で「鬼の面づくり」

これからも共に

ー 鬼祭がつなぐ私たちの未来

この祭りを支えているのは、安久美神戸神明社の氏子である14の町会です。これらの町会が、神楽、田楽、歩射、御神幸など、さまざまな神事や行事を協力して行っています。また、豊橋鬼祭は、単なる祭りではなく、地域社会の絆を深める上でも非常に重要な役割を果たしています。千年の長きにわたり、世代を超えて人々の心を結びつけ、地域の一体感を育んできました。本校でも、前日に行われる「宵祭」には、午前中、全校の子どもたちが安久美神戸神明社に出かけ、青鬼の儀式を見学しています。また、午後は多くの子どもたちが地域の活動に参加します。青鬼が門寄りで学校をはじめ地域を回りますが、その後ろには50名以上の子どもたちが袴、法被などを着て飴まきをしています。祭りを介した熱狂的な盛り上がり、子どもたちや地域の人々の深い繋がりが、この祭りを支えています。それは、豊橋のアイデンティティそのものであり、私たちの誇りです。来年の2月には、ぜひ安久美神戸神明社へ足を運んでいただき、この熱狂と感動を肌で感じてみてください。その際は、タンキリ飴と白い粉（小麦粉）にまみれてもよい服装でお願いします。

主たる参考文献

「八町小学校創立150周年記念誌」